

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものであるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム多喜人
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県薩摩川内市里町里470
記入者名 (管理者)	横山修子
記入日	平成 20 年 10 月 1 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「風林火山」という理念を掲げている。 「風」のように清々しくさわやかに 「林」のように静かに深く 「火」のように情熱的に 「山」のようにゆるぎない信念で	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を食堂ホールの見やすい場所へ掲示している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議等において、理念にも掲げている「利用者本位の介護」について話しをしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員においては、勤務時間に限らず生活の中で、地域住民との挨拶は大切にしている。隣近所とのつきあいが非常に深く、野菜や果物等の差し入れを頻繁にいただいている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも入会しており、地域でのイベント（夏祭りや運動会等）への参加も可能な限り行っている。また、その他についても、利用者と共に外出する機会を設け、地域住民との交流が図れるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まだ開設して2年のため、まだまだ地域の中で根付いていない。まずは、地域住民に気軽に足を運んでいただけるよう、ホーム内で行う行事等に参加を呼びかけている。	○ まだまだ参加していただける地域住民の方が少ないため、日々の交流を積極的に図っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が2回目の外部評価である。昨年の外部評価において、職員ひとりひとりが自己を見つめ直すことが出来たと感じている。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等においては、参加者が意見が出やすい状況をつくるために、雑談を交えながら和やかな雰囲気づくりに配慮している。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所に行った際等に、当事業所の現状の確認等していただき、良い情報交換の機会が得られている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	これらを学ぶ機会は殆どないのが現状であり、制度の理解度も極めて低い。	○ まずは、制度の理解を学ぶ必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろんのこと、精神的な虐待（言葉遣いや表情等）について特に注意するよう、朝礼時や職員会議時に確認している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時には、当ホームに来園していただくよう配慮している。その際に施設見学・重要事項説明等おこない、ご納得された上で入所申し込みに記入していただいている。また、入所日にも再度重要事項説明をおこない、契約を結んでいる。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や不満等をその都度言っていただける利用者もおられるが、思っておられてもなかなか伝えられない利用者もおられる。各利用者の性格等職員が十分に理解し、意見を引き出せるような環境づくりをおこなっている。	○ 毎日の業務に追われ、利用者とじっくりと腰を据えて対話する機会が少ない。職員ひとりひとりが自覚し、利用者と接する時間を確保していく必要がある。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者のご家族の殆どが近隣在住であるため、施設外でお会いした際は、近況報告をおこなうようにしている。また、ご家族が遠方在住の場合は、随時電話連絡し、近況報告等おこなっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見箱を設置しているが、まだご意見をいただいたことはない。	○ ご意見を引き出しやすい環境整備につとめていく必要がある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議をおこなっており、その際に意見交換をおこなっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の確保が困難で、勤務調整にも苦慮している状況であるため、柔軟な対応は現在のところ出来ていないが、緊急時には管理者をはじめ施設長、看護職がすぐに駆けつけられるようにはしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	<p>資質向上の面においても外部研修は重要であるため、なるべく参加できる環境整備をおこなっていく必要がある。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	在宅での認知症高齢者の介護は非常に過酷である。この現実を常に頭に入れ、入所申し込みから入所まで、なるべくご家族と接する機会を設けている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の多くは、「どこでもいいからとにかく預けたい」というご家族が多い。その場合はなるべくわかりやすく福祉サービスについての説明をおこない、その時に必要なサービスをご家族と一緒に考えられるような配慮をおこなっていく。	○	小さな島であるため、施設においても受け入れ人数が少ないのが現状であり、ご家族と離れて本土の施設へ入所される方が多い。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用もおこなっているが、現在のところ希望者はおられない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から学ぶことは非常に多いということを各職員が実感できるよう、なるべく利用者と接する時間がとれるよう、配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えたい関係を築いている	全職員が同等にご家族に接することが出来るよう、夏祭りや敬老会等の行事には、ご家族の参加を積極的におこなっている。	○	なるべく多くのご家族が参加出来るよう、行事の曜日や時間帯等考慮していく必要がある。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族のご面会時には、本人のご家族に対する表情等に注目し、家族関係の理解につとめている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	園外への散歩や自宅訪問等を通して、近隣との世間話しや情報交換の機会を設けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	茶話会やレクリエーション等、なるべく利用者が一緒になる時間を確保できるよう配慮している。しかし、その中で利用者同士のトラブル（口論）が発生してしまうこともあるため、利用者の言動には注意を払っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関への長期入院により退所となるケースが多い。退所後も各職員が面会に伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に掲げている「利用者本位の介護」をモットーにし、日々利用者と接する中で希望・要望等の把握につとめている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活と施設生活に大きな変化が無いよう、入所前の本人・ご家族への確認を充分におこなうようつとめている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が早急に把握することが出来るように、日々の利用者との関わりを大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はまだまだ充分であるとは言えない。アセスメントの重要さは理解しているのだが、内容が不十分である。	○	より良い介護計画となるよう、研修会への参加や関係者との密な関わりをおこなっていく必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス担当者会議等を通し、現状や新たに発生している課題を見出し、必要時には介護計画見直しを図るようにしている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成し、各職員がなるべくわかりやすく、詳細に記録するようつとめている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内にある畑の活用や希望時の買い物同行、外出しての茶話会等随時おこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や警察の来園は多く、利用者への声掛け等おこなってもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他サービス事業所との情報交換は随時おこなっているが、他サービス利用にはいたっていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ権利擁護の活用はないが、地域包括支援センターとは随時情報交換等おこなっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	離島ということもあり、医療機関の選択肢が少ないが、かかりつけ医の紹介があった場合や本人・ご家族の希望がある場合は、本土の医療機関への受診も対応している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医が本島にはおられないが、協力医療機関の主治医との連携は密に図っており、定期往診時等の関わりを大切にしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職が勤務しており、状態変化時の医療機関との連携を図り、適切な対処が出来るようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	状態変化により、入院が必要となれば殆どが本土の医療機関への入院となる。入院時には頻繁に医療機関との連携（電話連絡での状態確認や面会等）を図り、不安軽減につとめている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、看護職が十分に確保出来ないこと等により、現段階での取り組みはない。	○	終末期に対するご家族の意向確認等は充分におこなっていく必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期については、職員の不足等により対応出来ないことが多い。しかし、今後はまず終末期の対応に向け、職員間での勉強会等の実施により、理解を深めていかなければならない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	退所前より、ご家族や他施設とは十分に連携を 図っている。また、退所後も密に連絡をとり、状 況把握につとめている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	殆どの職員が、利用者とは昔からの顔見知りの方 であるため、言葉遣いも「狎れあい」になりがち であるため、朝礼時や職員会議等で確認し合うと ともに、職員用更衣室に注意事項として掲示して いる。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	自己決定が出来る利用者については、希望・要望 があれば、自宅訪問や買い物等随時対応してい る。自己決定が困難な利用者についても、毎日の 声掛けやコミュニケーション等により、希望・要 望を引き出せるよう配慮している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	日々の生活リズムが、職員側の都合で決まってい てしまうことが多い。	○	見えやすい場所に掲示してある理念を、 各職員が常に頭に入れておくようにしな なければならない。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている	衣類交換時や入浴時等には、本人が好む衣類を着 ていただいている。希望が無い場合は、確認のう え選んでいる。理容についても、希望がある方は お連れしており、希望が無い場合は、定期的に訪 問していただいている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好品に出来るだけ配慮し、より家庭的な 食事の提供につとめている。また、利用者の可能 な限り、食事の配膳や片付け等、職員とともにお こなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつ等は同じものではなく、利用者の嗜好・嚥下状態にあわせて提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各利用者の排泄パターンの把握につとめている。オムツ使用している方についても、随時のトイレ誘導をおこなっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はあるが、本人の希望に合わせ、時間をずらしたり、入浴日を変えたりしている。また、希望があれば、近くにある温泉の利用もおこなっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の入眠時間等の把握につとめ、ベッドメイキングや移乗介助等おこなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の中では、畑や周囲の草取り、家事等をおこない、その他、季節に応じて散歩や外での茶話会や昼食会等おこなっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度のお金を管理されている利用者もおられるため、随時確認している。		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外での茶話会等積極的におこなっている。また、利用者個人での外出希望時も、職員同行にて自宅訪問や買い物等おこなっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	景勝地での茶話会などはおこなっているが、利用者と職員が中心となっている場合が多い。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話が可能な利用者についてはその都度おこなわれているが、希望があっても自分ではかけられない利用者については、職員介助にておこなっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や友人のご面会が多い利用者もおられるが、殆どご面会のない利用者もおられる。ご面会のない利用者の方の精神状態の観察も注意している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に対しては、朝礼時や職員会議等により随時確認し合っており、少しずつではあるが、職員の理解度も高くなっている。	○	確実に身体拘束廃止に向けた取り組みがおこなわれるよう、徹底を図っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいるが、強い帰宅願望により、ホームから外へ出ようとされる利用者もおられるため、職員の見守りを徹底し、事故やトラブル発生防止につとめている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各職員の見守りや、利用者の状態についての職員間の申し送りを、朝礼時や職員間申し送りノートを活用し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品等は倉庫にまとめ管理している。また、利用者所有の危険物品は、利用者の同意のもと施設にて保管・管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	目配り・気配り・心配りを徹底し、利用者から目が離れることがないように、事故防止を図っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時のマニュアル・フローチャートは整備しており、職員会議等でも勉強会をおこなっているが、職員の把握はまだ理解度が低い。	○	いつ、どこで事故が発生するかわからないということを十分に理解して、適切な対応・報告をしていく必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	地元消防団に加入している職員もおり、連携は図れているが、避難訓練は不十分である。	○	定期的な避難訓練が確実にこなされるよう、消防等との連携を更に図っていく必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態変化時にはもちろん、近況報告等も随時おこなっており、今後起こり得るリスクについても随時説明をおこなっている。その上で本人・ご家族の意向や要望を確認している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	まず、普段の利用者の様子を確実に把握することからおこなっている。その上で、状態変化時は、報告手順に添い、適切な対応ができるようにしている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者毎の服薬管理表を作成し、記入している。この管理表には、薬の種類や作用が記されている。薬の変更時にはその都度管理表の訂正をおこなっている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	看護職が中心となり、便秘の管理をおこなっている。食べ物の工夫や毎日の運動、医療機関との連携を通し対応している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時・毎食後の口腔ケアはおこなっているが、充分におこなわれていなかったこともあり、外部より歯科衛生士に依頼し、口腔ケアの勉強会を開催して、技術向上につとめている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はチェック表を作成して記入している。また、毎食のメニューも記録しており、バランスのよい食事の提供を心掛けている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアルを作成しており、周知徹底を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルを作成し、調理用具の衛生管理や手洗い・うがい等、食中毒予防につとめている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路に近い位置に玄関を設置しており、来客者がわかりやすい構造になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の各所に花を飾ったり、ホール内に掲示板を設置し、写真等を飾っている。	○	より家庭的な雰囲気となるように、工夫して季節感漂う空間整備を図っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に畳やソファを設置しているが、ソファに座られる利用者はほぼ決まっており、自室で過ごされる方が多い。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要最小限の物しか置いておられない部屋が多く、家庭的な雰囲気とはなっていない。ご家族への依頼もおこなうも、積極的なご協力は得られていない。	○	職員によりインテリアを作成したりと、工夫を凝らして居室づくりをしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には注意しており、特にオムツ交換時の換気には注意を払っている。温度調節についても、職員の感覚に合わせるのではなく、常に利用者の感覚で調節するよう、心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活を送れる ように工夫している	前面バリアフリーとし、廊下には手すりを設置し ているが、手すりの無い部分もあるため、注意を 図っている。また、歩行時に障害物になるような 物（ソファやテーブル等）もあるため、注意し ている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	すべての利用者について詳しく理解しなければ良 い支援には繋がらない。日々の利用者との関係の 中で良い支援のありかたを考慮していかなければ ならない。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	外周りには芝生を植えており、芝生の上での歩行 訓練を日課とされている利用者もおられる。ま た、芝生の上での茶話会等も随時おこなってい る。また、敷地内に畑もあり、利用者の1人が中 心となり、野菜等をつくられている。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	② ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	② ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	④ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	④ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設から間もなく2年が経過しようとしています。まだまだグループホーム本来の意義である「家庭的な雰囲気」とはかけ離れています。ただ、日々の生活において、「利用者本位の介護」「笑顔が溢れる介護」には職員一丸で取り組んでいます。また、私達は地域に支えられていることを実感します。地域との深いつながりを大切に、より良いグループホームとなるよう、精進していきたくと思っています。